

吹田市地域医療推進懇談会の進捗について

- 1 医療や看護のスキル提供を介した病病連携について（案）

資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3

- 2 吹田市地域医療推進懇談会作業部会の進捗について 資料 1-4

- 3 病院職員対象研修会について（案） 資料 1-5

- 4 吹田市三師会の取組の進捗について 資料 1-6

医療や看護のスキル提供を介した病病連携について(案)

1 経過

○在宅療養者の急変時の入院受入れ等を推進するためには、在宅療養後方支援病院や地域医療支援病院の確保と併せて、急性期病床を持つ病院からの患者の流れの円滑化、また、地域包括ケア病棟や回復期・慢性期病床を持つ病院におけるサブアキュート患者やポストアキュート患者の受入れ体制の整備などが重要な要素となっています。

○そこで、懇談会での議論も踏まえ、充実した医療環境を有する本市の特性を生かし、各病院が有する医療や看護のスキルを相互に提供し合うことを通じ、病院間の連携の更なる促進と患者の流れの円滑化を目的とした「医療や看護のスキルの提供を介した病病連携」のしくみづくりについて検討してきました。

○吹田市医師会勤務医部会(平成 29 年 12 月 21 日開催)においても、市から本取組について報告させていただき、以下のような御意見をいただいています。

- ・急性期病院からポストアキュートの依頼がくるが、看護師のスキルアップのために基幹病院での研修を市や保健所、医師会でしくみを作ってほしい。
- ・地域包括ケア病棟を作ったが、ポストアキュートに対応できるようにしていきたい。急性期病院からこういう状態のケースをみてほしいというような情報交換の機会を作ってほしい。
- ・当院も転院や退院ができず患者が滞留することがあり困っている。地域医療支援病院がリーダーシップを取ってスキルの提供等をやるべきと思うので協力したい。
- ・病病連携については、ワーキングを作り実務者レベルも含めてもっと議論すべき。

2 医療や看護のスキルの提供を介した病病連携のねらいと取組内容

○急性期病床を持つ病院と、地域包括ケア病棟や回復期・慢性期病床を持つ病院とで、医療や看護のスキルアップのための研修等を行うことにより、更なる病院間の関係性が強化をねらいます。そして、地域包括ケア病棟や回復期・慢性期病床を持つ病院におけるポストアキュート患者の受入れ幅の拡大や、急性期病床を持つ病院における患者の流れが円滑化という両者のメリットをねらい、ひいては、在宅療養者の急変時入院の受入れ促進へとつなげるものです。

○各病院の提供可能な医療や看護のスキル、提供を受けたい医療や看護のスキルに関する情報を市で一覧表にまとめ情報提供するとともに、各病院の医師及び連携室担当者等の情報交換の機会を設定します。そして、病院間でのスキル提供のための研修会等の実施いただき、病病連携の促進につなげるものです。

目的

在宅療養者の急変時入院の受入れ促進をめざし、地域包括ケア病棟や回復期・慢性期病床を持つ病院の医療や看護の一層の向上によるポストアキュートとサブアキュート患者の受入れ拡大や、急性期病床を持つ病院の患者の流れを円滑化するために、各病院が有する医療や看護のスキルを相互に提供し合うことを通じ、病院間の更なる連携促進を図るものです。

イメージ (例)

【急性期病床を持つ A病院】

誤嚥性肺炎や圧迫骨折、心不全の方など、急性期症状が落ち着いた以降、転院して以後のフォローをしてくれる病院に引き継ぎたい。



提供可能な医療・看護のスキル

心不全患者の亜急性期の医療管理や再発防止の指導
認定看護師による皮膚・排泄ケアのノウハウ

【地域包括ケア病棟を持つ B病院】

摂食嚥下機能の評価や言語聴覚士等による訓練、骨折後のリハビリに力を入れている。ポストアキュート・サブアキュート患者をもっと受入れていきたい。



提供を受けたい(強化したい)医療・看護のスキル

心不全患者の亜急性期の医療管理について
ストマや褥創についての看護スキル

研修等の実施
連携の強化

- ① 提供可能なスキル・提供を受けたいスキルの一覧表の作成
- ② 事業説明会にて、各病院の医師や連携室担当者の情報交換

市が、各病院に照会し一覧表を作成
市主催の事業説明会を開催

- ③ 一覧表等をもとに、スキル提供を介した連携を取りたい病院を検討

心不全の亜急性期の医療管理のノウハウをお伝えすることで、B病院との連携を深めたい。



ポストアキュート患者の受入れを増やすために、心不全の亜急性期の管理についてA病院から教えてもらいたい。



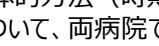
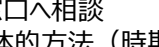
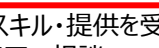
今後は、急性期症状が安定した心不全患者の受入れをお願いします！

病床の回転
が上がる！



急変時入院
受入れ促進！

病病連携の
円滑化！



患者の受入れ
増加！



OKです。誤嚥性肺炎の嚥下評価や訓練も力を入れているので、そういう患者も受入れますよ！

⑥ 実績等の集約

スキル提供による連携の実績やしくみの改善点等、市が集約

- ⑤ 両病院で研修等の実施(スキルの提供)



- ④ 連携を取りたい病院へ連絡、スキル提供の具体的方法について相談

提供可能なスキル・提供を受けたいスキルの内容について担当窓口へ相談
研修等の具体的方法(時期・期間・場所・方法・費用等)について、両病院で調整

提供可能な医療や看護のスキル・提供を受けたい医療や看護のスキルに関する一覧表

資料1-3

病院名	提供可能なメニュー		提供を受けたい(強化したい)メニュー	
	医療について	看護について	医療について	看護について
A病院	・心不全患者の医療、看護 ・重症心不全患者の緩和、心移植医療 ・急性期 脳卒中患者の医療管理 ・冠疾患、不整脈、弁膜症患者の医療管理(内科、外科)	・心不全患者の緩和ケア ・脳卒中患者の集中ケア、リハビリテーション ・心移植待機患者、移植後患者のケア、指導	・呼吸器疾患合併の医療管理 ・消化器疾患の急性期医療管理	
B病院		・専門看護師による がん看護、精神看護 ・認定看護師による 皮膚・排泄ケア、感染管理 - 緩和ケア、がん化学療法看護、糖尿病看護、新生児集中ケア、慢性呼吸器疾患看護、慢性心不全看護、がん放射線治療看護、救急看護		・訪問看護(訪問看護ステーション)
C病院	連携医療機関に対し、当院医師が特定の疾患に関する勉強会を実施することは可能です。将来的には、医師の派遣等も含め、地域に貢献することを検討していきたい。	・褥創ケア看護、認知症ケア看護、感染症対策 (この3点は、すでに近隣医療機関へ提供している)	・認知症など精神疾患合併症の患者の医療的管理 ・誤嚥性肺炎治療後の患者の亜急性期医療管理(経口摂取困難な場合のフォローアップ含む) ・脳血管疾患、足の骨折以外の疾患に対しての積極的なリハビリテーションの提供 ・感染症のある患者の医療的管理 ・CPRを希望する患者の医療的管理 ・腹水、胸水の医療的管理	・褥創のケア ・認知症など精神疾患合併症の患者の看護 ・感染症のある患者の看護 ・生活課題を抱えた患者への支援
D病院	・在宅外来について(主にがん、心不全、COPDなどで在宅療養を希望される患者に対するインフォームドコンセントやクリニックとの連携) ・CV造設及びそのフォローについて(外科外来で相談を受け、入院にて造設備。病診・病病連携ともに対応可能)	・認定看護師による教育プログラムを開催、院外からの参加可能 - 感染対策、呼吸器フィジカルアセスメント - 摂食・嚥下障害評価、人工呼吸器、抗がん薬の安全な投薬管理と意思決定支援、在宅酸素療法、神経障害性疼痛のケア、認知症4大疾患とその看護、内臓痛のケア、リンパ浮腫／看護とセルフケア、褥創発生しやすい患者さんの予防ケア		
E病院	・急性期医療全般 特に、呼吸器疾患患者の病状管理、整形外科疾患患者の術後管理など	・専門、認定看護師による看護の提供		
F病院	・ポートの作成	・急性期(呼吸不全・循環不全)集中ケア看護 ・産褥期のケア ・がん化学療法中の患者のケア	・精神疾患の急変時の対応	・精神疾患患者の合併症患者の看護 ・認知症

病院名	提供可能なメニュー		提供を受けたい(強化したい)メニュー	
	医療について	看護について	医療について	看護について
G病院	・整形外科疾患の手術的治療(特に人工関節手術、外傷)、術後管理とリハビリ ・関節リウマチにおける、生物学的製剤の導入・維持 ・関節リウマチ患者に対する各種人工関節置換、関節形成術などの手術治療 ・最新の骨密度測定器(DEXA)を用いた骨粗鬆症の診断と治療 ・ペインクリニックによる入院加療(ブロックなど併用) ・消化器一般外科手術の術後管理・内視鏡下胃ろう増設・交換、管理	・認定看護師による褥創、ストーマの看護 ・認定看護師による脳卒中リハビリテーションの看護 ・人工股関節置換術後の看護 ・人工呼吸器装着患者の看護 ・慢性疾患看護	・脊椎外科、手の外科、専門性の高い整形外科手術的治療 ・関節リウマチ患者の呼吸器疾患の診断と治療 ・慢性腎不全患者(透析導入前)の治療 ・心不全に関する加療 ・下肢静脈血栓症に対する対策と加療方法 ・入院時高齢者うつ病など発症時の対策方法	・化学療法看護
H病院	・ペースメーカー挿入、電池交換、定期チェック ・整形外科手術、その後のリハビリ ・夜間の緊急入院 ・禁煙外来 ・膠原病外来 ・眼科手術(入院)	・認知症看護 ・感染対策 ・慢性期から看取り看護 ・在宅連携支援	・精神疾患悪化時の指示や受入れ ・緊急手術 ・婦人科 ・小児科 ・結核	・ストマ・褥創の指導
I病院	・入院での病状管理 ・訪問診療 ・圧迫骨折等の急性期対応外の安静入院受入れ ・看取り	・褥創管理 ・感染対策	・急性期後の医療的管理 ・急変時の応急的受入れ先病院の連携	
J病院	・透析患者の合併症の管理 ・CKD患者の合併症の管理	・透析患者の看護・管理 ・CKD患者の看護・管理 ・血管合併症の看護・管理	・ベースに神経難病、精神疾患のある患者への医学的管理	・誤嚥、褥創のケア
K病院	・慢性期療養患者の医療的管理(特にリハビリテーション) ・地域包括ケア病床対象患者:脊椎・腰椎圧迫骨折 ・誤嚥性肺炎、食欲低下などの医療管理	・認定看護師による褥創、ストーマ、ウロストミーの看護ケアの指導と実施	・自宅へ退院するための医療的管理(特に栄養管理とリハビリテーション)	・吸引(口腔、経鼻、気管切開)の指導 ・経鼻、胃ろうからの注入の指導(手順、注意、観察項目等) ※医療的ケア教員講習会終了
L病院	・認知症疾患等合併症患者の医療的管理 ・認知症の鑑別診断 ・若年性認知症診断・治療	・認知症患者・家族支援と看護(家族の会、(認知症の)もの忘れ外来、看護外来、もの忘れ教室)	・救急医療 ・精神科病床への入院医療 ・外科医療 ・訪問診療	・救急看護 ・訪問看護
M病院	・特になし	・特になし	・認知症等精神疾患合併症の方の医療的管理	・認知症等精神疾患合併症の方の看護
N病院	・精神疾患(統合失調症や感情障害、認知症等)の外来及び入院治療	・精神疾患患者の入院中の看護、外来対応及び精神科訪問看護 ・入院生活における日常動作の援助		

吹田市地域医療推進懇談会 作業部会の進捗について

平成30年度 吹田市地域医療推進懇談会作業部会について

1. 作業部会 設置趣旨

吹田市地域医療推進懇談会で、在宅医療における訪問看護の果たす役割の重要性についての意見が出された一方で、訪問看護師の人材確保や人材育成、また訪問看護事業所間や病院との連携等についての課題も挙げられた。

それらを踏まえ、**在宅療養患者を支える看護職の連携促進と訪問看護の活性化等**のための具体的対策について議論をするために設置。

2. 作業部会構成員

市内の公立・公的病院の看護部(5名)

(大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、
済生会千里病院、済生会吹田病院)

吹田市介護保険事業者連絡会訪問看護部会(2名)

大阪府訪問看護ステーション協会豊能ブロック教育ステーション(1名)

大阪府吹田保健所(1名)

3. 作業部会 開催経過

第1回 課題の抽出と取組の現状、具体化する取組の選択について(H30.8.6)

第2回 具体化する取組の課題等について(H30.10.4)

第3回 取組の実施に向けた検討(H31.1.15予定)

訪問看護と病院看護師の課題・取組の現状

○訪問看護の課題と取組の現状

課 題

- 訪問看護師の人材確保・育成
- 病院看護との円滑な連携体制の構築
- 訪問看護事業所間の連携やネットワーク構築

取組の現状

- 訪問看護ステーション協会等が中心になり、病院看護師やケアマネジャー等と訪問看護師との交流会・研修会の開催
- 訪問看護事業者間の交流研修会の開催

○病院看護師の課題と取組の現状

課 題

- 在宅医療や訪問看護に対する理解促進
- 地域での生活を見越した看護の提供
- 認定看護師や専門看護師等の地域での活躍

取組の現状

- 病院看護師の訪問看護事業所への出向
- 訪問看護事業所での短期間の実地研修
- 在宅療養の理解促進のための研修の実施
- 近隣の訪問看護事業所と看看連携を目的とした学習会を開催

など

課題に対する対策への主な意見

これらの課題と取組の現状を踏まえ、作業部会では以下の3つの取組について、その実現の可能性を含め、実施に向けた課題やその対策等について議論を深めていくこととした。

人材
確保

連携
促進

理解
促進

病院看護師の訪問看護事業所への出向のしくみ

連携
促進

理解
促進

病院看護師の訪問看護事業所への
短期間の実地研修

連携
促進

理解
促進

病院看護師と訪問看護事業所の
連携促進のための研修会等の企画

人材
確保

訪問看護師の人材確保
(人材育成含む)

連携
促進

病院看護師と訪問看護
事業所の連携促進

理解
促進

病院看護師の訪問看護
に対する理解が深まる

取組の実施に向けた議論の概要

人材
確保

連携
促進

理解
促進

(1) 病院看護師の訪問看護事業所への出向のしくみ

主な意見

病院看護師のメリット

- 在宅医療や訪問看護の理解が深まり、在宅で療養可能な患者像への認識が広がる
- 地域での生活を見越した看護ができ、看護の質の向上と、退院支援の充実に繋がる

訪問看護事業所のメリット

- 病院看護師の出向を受入れることで、訪問看護事業所の人員が増える
- 病院と顔の見える関係ができることで、退院支援の円滑化など連携強化がすすむ
- 病院からの依頼が増えることで、利用者が増え、経営の安定につながる
- 急性期の看護技術が学べることで、訪問看護師のスキルが向上する

実施にあたっての課題

- 労働条件の調整が課題（給与差額、福利厚生等）
- 病院の看護体制を維持するための調整が必要
- 出向する訪問看護事業所の選定をどうするか
- 訪問看護事業所における出向者に対する教育体制の確保が可能なか
- 訪問看護事業所の人材確保についてのニーズを一元的に把握するところがない

(2) 病院看護師の訪問看護事業所への短期間の実地研修

主な意見

- 短期間の実地研修であれば、病院の看護師を受講させたい
- 訪問看護ステーション協会の実地研修の利用実績が少ない
- 訪問看護ステーション協会の現場実習は2日間。希望すれば現場実習期間を延長できるような仕組みを作ってもらいたい
- 研修受け入れ先の訪問看護事業所に対する補助や、負担を軽減するような支援策について検討する必要がある
- 訪問看護師にとっても、病院看護師から学ぶ機会になる

(3) 病院看護師と訪問看護事業所の連携促進のための研修会等の企画

訪問看護ステーション協会等が中心に実施している取組の活性化について

主な意見

- 企画・運営を少人数でしており、負担が大きい
- 企画から病院看護師も関わり、長期的に継続できる取組にした方がよい
- 病院の研修会の一つに組み込むと、病院看護師も興味を持つ

病院職員対象研修会について（案）

1 趣旨

病院完結型医療から地域完結型医療への転換が求められている中、病院においては、入退院支援や地域との医療連携等の強化が行われている一方、誤嚥性肺炎や心不全等の繰り返す入退院や入院の長期化、延命や救命を望まない患者の救急搬送等、苦慮する現実もあり、在宅医療との更なる連携が必要とされています。

そこで、入院医療と在宅医療の切れ目ない継続的な医療連携を実現するための取組の一つとして、病院職員（医師・看護師等）の更なる在宅医療への現状理解と連携促進を目的とした研修会を実施するものです。

また、在宅医療推進においても、地域の医療機能の適切な分化・連携は重要な要素であることから、病院間の連携促進を目的とした取組の提案と情報交換の機会も設定します。

2 対象

市内病院の医師・看護師・連携室職員 等

定員 約 100 名（各病院から 6、7 名程度を想定）

3 日時及び場所

日 時 平成 31 年 3 月 16 日（土） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで

場 所 市立吹田市民病院 1 階 講堂

4 内容

（1）「在宅医療について ～在宅医療と病院との円滑な医療連携の必要性～」

医療法人学縁会 おおさか往診クリニック 田村 学 理事長

（2）「医療や看護のスキル提供を介した病病連携について」

吹田市職員から病病連携の取組について説明

（3）意見交換会（顔の見える関係づくりの機会）

病病連携促進のための病院間での情報交換（職種ごとの交流）等

吹田市三師会の取組の進捗について
～11月8日開催 地域医療推進懇談会での報告より～

1 吹田市医師会より

- 医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討について、学会や旅行などの短期間の代理体制や、看取りが近くなるなど病状悪化時の引継ぎ等について、個人レベルで、診療所間でやり取りをされている状況。
- 病状悪化等での主治医の交代については、様々な患者や家族、医師がいるので、状況によっては様々なトラブルの可能性もあり、医師会が一括して紹介するのは難しさがある。ただ、在宅医療を実施している先生の情報提供や、顔の見える関係を作っていくことが必要であると考えている。
- 医師会として、訪問診療への対応の実態等について、アンケートの実施を考えてみたい。
- 毎年、新規開業の診療所や在宅医療に関心のある医師を対象に、在宅医療研修会の入門編として講義を実施。去年度は17名、今年は22名参加と、増加している。
- 強化型在宅療養支援診療所の施設基準を取りたいので在宅医療を実施している医師の情報を教えて欲しい、という問合せが医師会に数件寄せられている。医師会から連携先を指定することはできないが、施設基準の取得を希望している診療所がどのくらいあるのか一度調査をしたり、在宅医療を実施している診療所の情報提供も検討してみたい。
- 在宅療養者の急変時の対応として、在宅療養後方支援病院をさらに活用いただけるよう、後方支援病院について在宅医療研修会のテーマとしたり、在宅医療研修会の入門編でも周知をしている。また今後は、地域ケア病棟についても、どういう患者をどのように依頼させていただいたらいいのかなど、会員に情報提供していきたい。

2 吹田市歯科医師会より

○今年度は、大阪府の基金事業において、がん連携の医科歯科連携と、デイサービスの職員に対する口腔ケアについての研修事業を実施予定。

○他団体との連携促進のために、薬剤師会やケアマネ塾、訪問看護の団体等の研修会でお話をさせていただいている。今後もこの取組を続けていきたい。

○誤嚥性肺炎について、歯科からも、栄養面を含めた摂食・嚥下機能へのサポートに介入していけるよう、摂食嚥下の検査や評価、訓練の実施をしていくために、歯科医師会の中にチームを立ち上げた。

摂食・嚥下における歯科医師の役割や機能、またチームの設置などについて、まず、会の中での周知をはじめ、病院医師や看護師、医師会、薬剤師会への周知活動に力を入れ、予防的段階から介入する体制作りをしていきたい。

3 吹田市薬剤師会より

○府の事業において、在宅支援を積極的に実施している薬局に、在宅の経験がない薬剤師の同行訪問をし、在宅について学ぶという事業を実施している。

○在宅に関するスキルアップとして、麻薬の適正使用の研修会や、無菌調剤、栄養管理、在宅に必要な医療材料、衛生材料の研修会などを実施している。

○在宅医療に移行されるケースが少しずつ増え、かかりつけ薬局として訪問支援するケースが増えてきている。複数の診療所から処方される薬の多剤併用により、その副作用が原因で入院となるケースが問題視されてきていることから、薬剤の一元的で継続的な管理のために、かかりつけ薬局の機能強化を進めていきたい。